



向陽だより

杉並区立向陽中学校発行
令和元年5月16日 5月号 (通算 332号)
<http://www.suginami-school.ed.jp/kouyouchu/>

《教育目標》
◇よく考える人
◇思いやりのある人
◇たくましい人
『人間賛歌』の教育

人を支えるエール

校長 菅野 武彦

子どもは遊び上手であってほしい。なぜかという、遊びには子どもが学ぶことがぎっしり詰まっているからだ。いつも感心させられることがある。小三の姪(めい)と年長の甥(おい)のことだ。ふたりは姉弟仲がよく遊び上手。外遊びにも室内遊びにも余念がない。特に自然豊かな田舎での外遊びが大好きで、ちよくちよく私にも声がかかる。夏は虫取り網を片手に蝉(セミ)やとんぼ捕りに夢中になる。クワガタがいそうな木々を丹念に探す。蝶やカタツムリを捕まえては狂喜乱舞だ。私も鳴き声を頼りに、ふたりには捕れない蝉に的を絞る。虫かごが見る見るうちに昆虫でいっぱいになる。この時のふたりの目の輝きは何ものにも代えがたい。

しかし、こうした遊びには危険がつきものだ。私が見ていても危ないと思うことがある。一歩間違えればという場面だ。ところが、ふたりとも身のこなしがうまい。これは幼少期から野山を駆けずり回ったり、坂道の上り下りを繰り返したりして足腰が強くなっているからなのだ。多少のことでは転ばないし、いざという時に踏ん張りがきく。高所でもバランスの取り方がうまい。自ずと危険を回避する力が身に付いている。急斜面の土手を降りようとする甥に「その体勢で降りたら危ないな」と言うだけで、甥は“どうしたら安全に降りられるか”を考え安全な体勢を取って土手を滑り降る。見事である。というわけで、私はふたりにはあまり「危ない!」とは言わないで見守ることが多い。勿論のこと、ボールやフリスビーを追って勢いよく車道に飛び出したりしないよう注意する。

向陽中生には活動的であってほしい。なぜかという、活動を通して生徒が自分で“自立”を試行錯誤するからだ。特に自立に向わせるには“挑戦=やってみる”が欠かせない。そして、

挑戦に伴う成功や失敗の経験もいっぱい積ませたい。うまくいけば嬉しい。うまくいかなければ残念だが、失敗のない人生なんてないのだから。挑戦するからこそ得られる学びが自分の考えを形づくる。子ども時代は成功体験も失敗も生きる知恵となる。中学生ともなれば失敗をうまく修正する力が身に付いてくる。今年度は「何も考えずに当たり前のようにやる生徒の意識を変える」ことと「自分で考えないで指示待ちのみで人のせいにする生徒の意識を変える」ことに学校が挑戦し、向陽中生を自立した学習者に育てたい。そのためにも、生徒一人一人に「自分軸～自分が決める!～」の実践を迫りたい。「考える→挑戦する→できる・できない→考える→修正する」のサイクルで。

大人には向陽中生にエールを送ってほしい。なぜかという、応援してくれる人がいると、生徒は頑張れるからだ。失敗が付き物の人生なのだから、生徒には「応援している人がいるよ」というメッセージが何よりも力になる。生徒のそばで見守るもよし。声を出して応援するもよし。そして、ひと言「頑張ったね!」と。“私はあなたを認めている”のメッセージを送る。教員には時として強く指導することも必要だ。しかし、生徒を“自立した学習者”に育てるならば、時としてとことん試行錯誤させる時間も必要である。そうした中で、小さな達成感であっても、生徒とともに喜びを分かち合うことが生徒の心を揺さぶるのだ。

姪と甥のふたりは、この春冬眠から目覚めた虫たちを探しまわる。さすがのふたりも毛虫はお手上げだ。ところが、地面や土手を這いずり回るトカゲを見つけては、いた!と歓声をあげ、捕まえようと必死になる。見事トカゲを捕まえると、虫かごに入れて観察している。つぎは、トカゲのエサとなる蟻やミミズを探しに没頭する。トカゲへの気遣いも忘れない。